

平成23年度

行政評価の概要



京都府南丹市

目 次

1	行政評価導入の背景	1
2	行政評価導入の目的	1
3	行政評価のながれ	2
4	総合振興計画の施策体系	3
5	施策優先度評価	4
6	行政評価推進委員会の評価（外部評価）	4
7	行政評価の概要	
第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る		
	第4節 医・食・住の充実と高齢者や障がいのある人の自立を支援する	5
第2章 自然・文化・人を生かした郷を創る		
	第4節 ひとを温かく迎える	6
第3章 人・物・情報を高度につなげる		
	第6節 にぎわいの市街地をつくる	7
第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く		
	第1節 共に生きるまちづくりを進める	8

1. 行政評価導入の背景

急速に進む少子高齢化による人口構造の変化で、新たな行政需要の拡大や税収入の減少など、今後は、さらに厳しさを増す財政状況の中で、本格的な地方分権の時代を迎え、自己決定・自己責任により市の独自性・自立性を高める行財政運営が求められており、今後市の果たすべき役割はますます重要なものとなっています。

また、依然として財政状況は厳しい中で複雑化・多様化する市民ニーズに的確に対応していくには、施策の重点化や選択など成果を重視した行政運営の効率化が求められます。

2. 行政評価導入の目的

行政活動（施策・事務事業）を、一定の基準（視点）・指標（ものさし）を使って客観的に評価して、その効果・目標達成度などを継続的にチェックし、行政資源の効率的な配分に役立てるなど、評価の結果やプロセスを公開・公表することによって、市民への説明責任を果たします。さらに、職員の意識改革や組織改革にも結びつける活動のことをいいます。

効率的で質の高い行政の実現

計画（Plan）－ 実行（Do）－ 評価（Check）－ 改善（Action）というマネジメントサイクルを確立し、職員が担当する事業を継続して自己点検・評価することにより効率的で質の高い行政を実現します。

結果重視から成果重視の行政の推進

市民目線での成果を指標化し、継続して達成度を評価することにより、成果重視の行政を推進します。

担当する事業やその上位施策の目的を明らかにし、自分が果たすべき使命や目標を設定する。

市民への説明責任の履行

行政活動に関する評価結果等を公表することにより市民に対する説明責任を果たします。

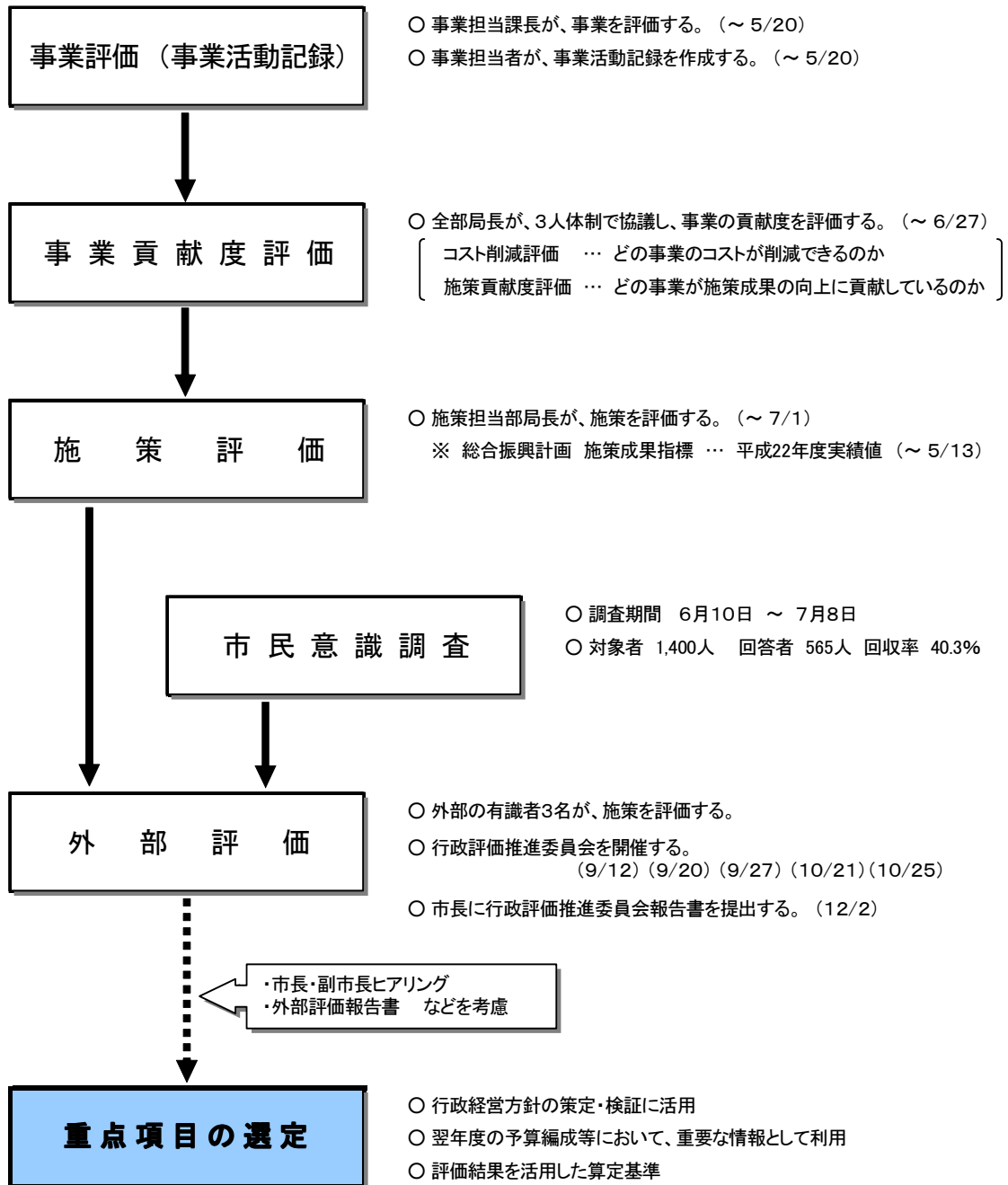
市民目線で政策形成を行い、常に市民の満足度を高めるようなサービス品質の向上を図る。

職員の意識改革

自分たちの活動を評価することで、事務事業への目的意識やコスト意識が芽生えます。

併せて市民の視点に立った事業の企画や実施など、企業的経営感覚を養成し、職員の意識改革を目指します。

3. 行政評価のながれ



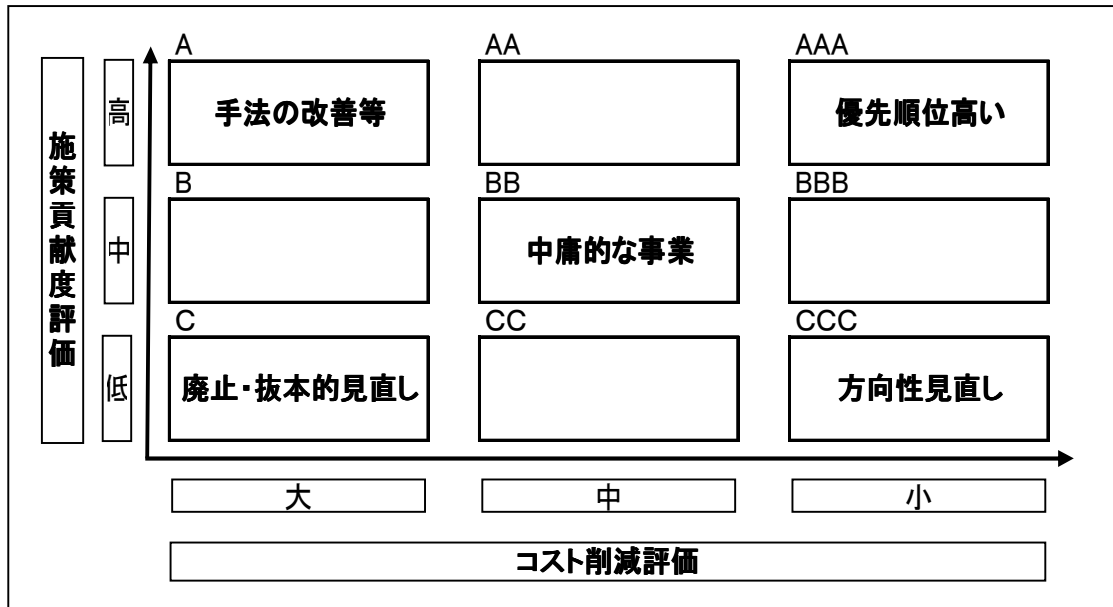
4. 総合振興計画の施策体系

将来像	政 策	施 策	事業数
森・里・街がきらめくふるさと南丹市	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る	1 安心して子育てできるまちをめざす	44
		2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる	36
		3 生涯を通じて学び、活かす機会をつくる	46
		4 医・食・住の充実と高齢者や障がいのある人の自立を支援する	105
		5 ふるさとで働ける場をふやす	6
	第2章 自然・文化・人を活かした郷土を創る	1 豊かな緑と清流を守る	45
		2 資源が循環するまちをつくる	19
		3 南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる	39
		4 ひとを温かく迎える	20
		5 伝統文化を継承する	17
		6 暮らしの安全と安心を守る	23
	第3章 人・物・情報高度につなげる	1 高規格の網を広げる	0
		2 鉄道をさらに便利にする	8
		3 安全で快適な主要道路をつなぐ	36
		4 誰もが安心な地域交通システムをつくる	4
		5 双方向の情報通信基盤をつくる	3
		6 にぎわいの市街地をつくる	16
	第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く	1 共に生きるまちづくりを進める	27
		2 住民自治の地域づくりを進める	10
		3 多様な担い手のパートナーシップを育てる	4
		4 大学等と連携し、ともにまちをつくる	2
		5 未来を担う人づくりを進める	6
		6 行財政改革を推進する	18

※本年度評価対象施策

5. 事業貢献度評価

- 評価の方法 … 全部局長がグループに分かれて協議により3段階で事業を評価
- 施策貢献度評価 … 事業の成果が、施策の目標達成にどの程度貢献したか
- コスト削減評価 … 費用対効果の評価を基本に、各事業のコスト削減余地を評価



6. 行政評価推進委員会の評価（外部評価）

施策ごとに総合的に判断して、事務事業の数や内容が「適正」、「微調整」、「要改善」かの判定をします。また、行政評価の視点、財政削減の視点から具体的内容等を提示します。

評価の対象は、南丹市総合振興計画に掲げられた全23施策の内、本年度は様々な分野から4施策を抽出し評価した。

【外部評価の視点】

区分	視 点
適正	施策の目的を達成するための事業が適正に配置されている
微調整	施策内に微調整（修正・整理）が必要な事業がある
要改善	施策の目的を達成するために工夫や要改善が必要な事業がある

7. 行政評価の概要

第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る

第4節 医・食・住の充実と高齢者や障がいのある人の自立を支援する

目的

- 定住環境を整える。
- 保健・医療・福祉の連携により、総合的かつ専門的な支援を行う。
- 住み慣れた地域で安心して暮らせる体制を整える。

課題

- 適切な定住環境を整備する必要がある。
- 保健・医療・福祉が連携して総合的、専門的な支援が必要である。
- 住み慣れた地域で安心して暮らせる体制整備が必要である。

取組

- 健診、相談、指導
- 介護予防活動
- 保健
- 医療体制
- 在宅医療
- 介護保険
- 医療助成
- 循環型農業
- 循環型納魚、地産地消、食育 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21	H22		H23	H24
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値
がん検診受診率(肺がん)	%	35	30	36	31	37	37
がん検診受診率(子宮がん)	%	29	29	30	28	31	31
地域の福祉ボランティア活動に参加する人数	人	1,344	1,911	1,500	1,477	1,550	1,600
介護が不要な高齢者の割合	%	82.8	83.8	82.7	82.3	82.5	82.5

▶ 市民の意識

Q：南丹市において、安心して医療を受けられる体制ができていますか。

- ・ そう思う / どちらかといえばそう思う 44.8 %
- ・ そう思わない / どちらかといえばそう思わない 27.1 %
- ・ どちらともいえない 27.1 %

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価

微調整

● 今後の方向性

- 必要なサービスや多様なニーズが混在する中で、限られた財源を有効に活用していく。
- 高齢者に対する全サービスを拡大していくのではなく、選別・選択をしていく。
- より分かりやすい広報に努め、健診の受診方法、申し込み方法等を周知徹底していく。

第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る

第4節 ひとを温かく迎える

目的

- 観光による集客数を増やし、観光消費額を増やす。
- 人とひととの交流を推進する。

課題

- 観光入込客は横ばい、又は減少傾向となっている。
- 各種交流イベントは、入込客の増加、また、市民の一体感の醸成に向けた市民交流の効果は薄い。

取組

- 観光ネットワーク体制
- 営業力・ホスピタリティ向上
- 景観保全・美化
- 施設バリアフリー化
- 観光情報発信
- 温泉施設と他の資源の融合
- 温泉の活用
- 特産品開発・販路開拓
- 体験農園などの整備、河川環境 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21	H22		H23	H24
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値
観光入込客	千人	1,516	1,790	1,800	1,745	1,900	2,000
観光消費額	百万円	2,023	2,079	2,150	2,359	2,180	2,200
外国人の入込客(宿泊)数	人	439	533	460	308	480	500

▶ 市民の意識

Q：南丹市は魅力的なまちだと感じ入るか。

・感じる / 多少感じる	41.6		41.6 %
・全く感じない / あまり感じない	28.6		28.6 %
・どちらともいえない	28.7		28.7 %

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価

微調整

● 今後の方向性

- 市域が広大で観光拠点施設も分散しているので、モデルコースの設定によってそれぞれの施設を活用し、滞在時間を延長させる仕掛けづくりをしていく。
- 観光協会のネットワーク化。

第6節 にぎわいの市街地をつくる

目的

- 魅力あるまちとして再生を図り、市内商業の活性化を進める。

課題

- 旧来からの市街地が空洞化している。
- 高齢化、商業の低迷等により、かつてのにぎわいを失いつつある。

取組

- 都市計画の推進 ● 土地区画整理事業
- 「都市計画マスタープラン」「緑の基本計画」の早期策定
- 交流拠点、空き店舗対策 ● イベント開催の支援
- 地域拠点の創出 ● まちづくり活動団体の支援
- 商業者の支援・育成活動 など

▶ **施策の成果**

目標項目(成果)	単位	H20	H21	H22		H23	H24
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値
区画整理進捗度	%	67.0	75.0	80.0	77.0	90.0	100.0
商工会会員数	人	843	798	860	778	880	900

▶ **市民の意識**

Q：南丹市の商店街(商業)がにぎわっていると思われませんか。

- ・ そう思う / どちらかといえばそう思う 4.6 |||| 4.6 %
- ・ そう思わない / どちらかといえばそう思わない 83.6 ||||| 83.6 %
- ・ どちらともいえない 10.5 ||||| 10.5 %

▶ **外部評価**

行政評価推進委員会評価

微調整

● **今後の方向性**

- まちづくり一体となった魅力ある商店街づくりや、メディア活用した産業携帯の進退に伴い、これに対応した経営者の育成や、メディアを活用した商業活動が必要。
- にぎわいコンソーシアム園部や商工会などの構成団体と協力し、人が暮らす場にふさわしい商業活動の取り組みが必要である。

第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く

第1節 共に生きるまちづくりを進める

目的

- 一人ひとりの生命と人権を尊重し、差別を許さないまちづくりを進める。

課題

- 人権問題の正しい理解・認識を培い、人権を尊重する実践を積み重ねていくことが求められている。
- 隣保館施設整備や活動について、今後の活動のあり方・将来の管理・運営について、十分な検討が必要である。

取組

- 学習活動の推進
- 相談窓口の充実
- 啓発活動の推進
- 人権啓発リーダーの育成
- 隣保館の管理運営
- 男女共同参画、女性の登用拡大、女性団体連絡会活動支援
- 虐待事象の対応
- 地域包括支援センター など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21	H22		H23	H24
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値
啓発事業参加者数	%	6.0	4.9	8.0	4.4	9.0	10.0

▶ 市民の意識

Q : 世の中には、まだまだ性別や国籍、身体的障がい等による差別が残っていますが、近年南丹市においてこれらの差別が減ってきているとお感じですか。

- ・ 減ってきていると感じる / どちらかといえば減ってき 50.1 %
- ・ 減ってきてはいない / あまり減ってきているとは思 15.0 %
- ・ どちらともいえない 32.0 %

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価

微調整

● 今後の方向性

- 女性ネットワーク会議を男女共同参画の中核として活動目標の設定を検討していく。
- 隣保館活動は、文化センター運営審議会へ適切な情報を提供し、それぞれの館の活動評価を行なっていく。
- 人権教育・啓発推進協議会活動を中心として成果を挙げているが、幅広い市民の参加を得るために工夫が必要で、特に研修の支援・相談活動を高めていく。